

上期輸出19%増も、下期はEU新制度を警戒

■リエージュ空港

ベルギーのリエージュ空港(LGG)は8日、2026年上半期(1～6月)の貨物取扱量が前年同期比11.3%増の69万7816トンとなったと発表した。輸出貨物は同19%増と大きく伸び、貨物便の発着回数も同3.3%増の1万4354回となるなど、上期は堅調に推移した。一方、欧州連合(EU)が7月1日に導入したeコマース(EC)関連の新制度については、短期的に航空貨物量へ悪影響が及ぶ可能性があるとして、下期の動向を警戒している。

EUは7月1日から、150ユーロ以下の少額貨物に対する関税の免税措置を廃止し、貨物に含まれる品目カテ

ゴリーごとに3ユーロの暫定関税を課す制度を導入した。輸入小口貨物への取扱手数料も、早ければ11月に導入する方向で検討されている。中国系ECプラットフォームなどを通じた低価格小口貨物の流入に対応する措置となる。

同空港の貨物量の伸び率は、第1四半期(1～3月)の前年同期比15.6%増に対し、第2四半期(4～6月)は同7.5%増と鈍化した。輸入貨物は上期に6%増。輸出はアジア向けが17%増、北米向けが51%増となった。第2四半期に限ると、輸出が18%増だった一方、輸入は1%未満の伸びにとどまった。

貨物量が貨物便の発着回数を上回る伸びとなったことについて、LGGは、空港業務の生産性向上を示す結果としている。

EUの新制度を巡っては、航空輸送から海上輸送へのモーダルシフトや、欧州域内での配送・フルフィルメント拠点の増加につながる可能性があるとして指摘した。現時点で影響を判断するのは時期尚早として、今後の貨物動向を注視する。

LGGには、欧州ハブを置くフェデックスエクスプレス、同空港を本拠とするASLエアラインズ・ベルギーとチャレンジ・エアラインズBEのほか、エミレーツ航空などが貨物便を乗り入れている。